

## 小売業のためのモバイル決済最新動向 (参照:商業界 9月号 P68~69)

### モバイル決済とは

モバイル決済とは、専用端末を使わず、スマートフォン（以下、スマホ）やタブレットといったスマートデバイスを使ってクレジットカードや電子マネーの決済を行うサービスの総称です。ここでは、お客がスマホで決済するものと、店がスマートデバイスを使ってカード決済するものの両方をモバイル決済と定義します。具体的には、大きく4つのタイプがあります。

- ①店のスマホやタブレットに小型のカードリーダーを取り付け、クレジットカードの決済を行うタイプ
- ②スマートデバイスとBluetooth（ブルートゥース：近距離無線通信）でつながった専用の小型端末でカードの処理を行い、スマートデバイスを通して決済を行うタイプ
- ③スマホアプリとスマホに備わっているNFC（Near Field Communication:近距離無線通信）を使って、店のリーダーと非接触で通信し決済を行うもの。厳密にはFeliCa（フェリカ）と区別されるが、仕組みは同じである
- ④決済アプリを使って、お客のスマホに表示されたQRコードを店のスマホ、タブレットのアプリで読み取るものと、店が提示するQRコードを読み取ることで決済を行うもの

### 政府が進めるキャッシュレス社会の推進

政府は2017年6月9日に閣議決定された「未来投資戦略2017」で、27年6月までにキャッシュレス決済比率を倍増させ、4割程度とするとしました。

政府がキャッシュレス化を進めるのは、国内の生活者や訪日外国人観光客の利便性向上はもちろんだが、生産性向上と働き方改革にも大いに関係しています。

キャッシュレス化が進めば、現金と過不足計算、釣銭補充、レジ精算などの現金管理コストは大幅に削減され、さらに閉店後の売上管理に要する時間も短縮、働き方改革にもつながります。

しかし、中小小売店など裾野の広い業界で、コンビニやスーパーマーケットのようなシステムを導入するのは難しいです。

そこで、身近なスマートデバイスを利用するモバイル決済がキャッシュレス化推進に寄与することになります。

### 小売業におけるモバイル決済のメリットとは

既存の専用端末機やPOSシステムによる決済と比較して、モバイル決済のメリットを考えてみましょう。

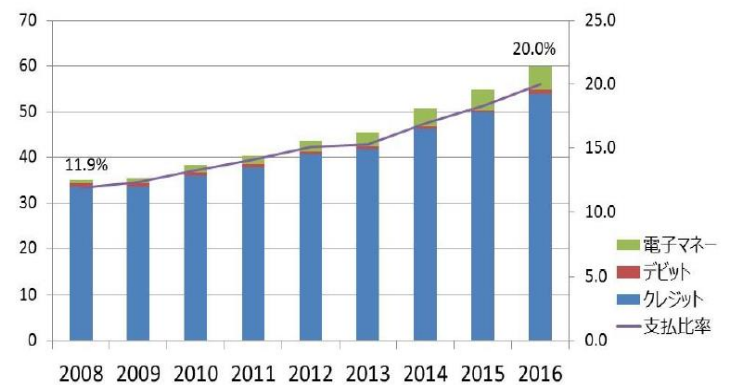
- ①決済手数料が一律で料率が低い（3.2%台～）
- ②入金までの期間が短い（最短1日）
- ③申し込みが簡単で、すぐに導入可能＆低コスト
- ④催事場、移動販売、配達でもその場で決済できる
- ⑤国内の各種決済サービスに加えアリペイ、ウィーチャットペイにも対応

### モバイル決済の今後

メガバンク3行がスマートデバイスを使ったQRコード決済で規格統一を目指す動きもありましたが、規格が分かれたまま普及が進むと、消費者や小売店の利便性を損ねるという判断の下、経済産業省も規格統一に乗り出す模様です。

メガバンクにヤフーや楽天などが加わった協議会が立ち上がり、年内にも統一に向けた行動指針をつくる方針です。実現すれば、モノやサービスの売買においてキャッシュレス化が加速しそうです。

図表 キャッシュレス支払い額と民間最終消費支出に占める比率



左軸の単位は兆円、右軸の単位は%

出典 経済産業省 キャッシュレス・ビジョン

平成30年4月 経済産業省 商務・サービスグループ 消費・流通施策課